

閉会挨拶 済生会山口地域ケアセンター特別顧問 安武俊輔氏

山口地域ケアセンターの安武と申します。本日は生活困窮者問題シンポジウムという大変大きな問題で、午後は5名のシンポジストの先生方、ならびにコーディネートをしていただきました草平先生、誠にありがとうございました。

シンポジストの山下先生と岩崎先生は、はるか遠方からようこそここ田舎、山口にお越しいただきまして、ありがとうございます。特に岩崎先生は途中、新幹線が事故があったということで、間に合うかどうか心配されたと思いますが、無事来られることができて私どもも安心しております。また、コーディネートをしていただきました草平先生には大変よくまとめていただきました。今日はとてもいい時間を過ごせたと思っています。

私も済生会に就職して35年経ちますが、35年の間、済生会の大きな3本の柱であります医療、ならびに医療・福祉の総合的な提供、3番目の生活困窮者への積極的な支援という、この三つの柱を常に考えながら行動してまいりました。行動したことが今日の篠原シンポジストからも発表があったように、山口発といいますか、済生会として山口モデルを全国に発信しようということで前進してまいりました。

先ほどフロアのほうからご質問がありましたが、山口は行政、自治体とよく仲良くしているなというお話がありました。私も全国の済生会のいろいろな話し合いに出ますが、自慢ではないですが、山口ほど行政、自治体と行き来があるといいますか、密着に接しているところはないのではないかと。ここについて済生会はこれからも進んでいかなければならない。生活困窮者問題だけでなく、ほかの問題でもここをしっかりとしていかなければならない。

特に私たちはリハビリ関係の理学療法士や作業療法士、障害者の支援員とか包括支援センター等々の職員を山口市に出向させたりしています。かなりの行き来があります。また県とも行き来がありますし、草平先生もおられますが、山口県立大学ならびに山口大学との連携、協力もしています。

いわゆる産官学で力を合わせて地域住民のために、地域包括ケアシステム構築のために頑張っただけで、これからは今日のシンポジウムであった大変すばらしいお話、苦勞のお話等々を頭に入れて、さらに進化し、前進していこうと心強く思ったところです。

最後になりましたが、本日お忙しいところ多数ご参加いただきました皆様方に心から御礼申し上げます。ありがとうございました。